

トリエ京王調布を見学

2017年9月末オープンから早や半年。トリエ京王調布が人気を集めています。そこで「わくわ〜く」ではメインとなるA館を潜入取材してきました。



通路はかなり広く安心でした

3F ファッションフロア

女性向け生活雑貨・ファッションなど16店が入っています
帽子や時計の専門店もあります



4階フロア。店内は明るくて開放的でした

4F ライフスタイルフロア

生活雑貨、書店、ネイルサロンなど10店が入っています



注目!

フラットな床

店舗への入口は全店完全にフラットになっていました



5F レストランフロア

寿司、洋食、中華、焼肉など飲食11店舗が入っています

レストランフロアは多くの店が車いすの利用を考えて店舗内の通路も広くとってありました

注目!

広いトイレ

トイレでは電動車いすも回転できました



「トリエ京王調布」とは?

駅直結のファッション雑貨・レストランが入るA館と、ビックカメラとカフェの入るB館、イオンシネマの11スクリーンのシネマコンプレックス「イオンシネマシアタス調布」と飲食店などの入るC館があります。ショップは全部あわせるとグルメから生活雑貨、ファッションなど72店舗あります。



イオンシネマ「シアタス調布」では、めじろ作業所が貸切で上映会を開催!



貸切なので人の目を気にすることなく観られたとの感想もありました
参加者は利用者、家族、スタッフなど70名

めじろ作業所が1月12日に新年会として定員74人の4番スクリーンを貸切つて、映画「8年越しの花嫁」の上映会を行いました。この日はイオンシネマの配慮で、聴覚障がいの方と高次脳機能障がいの方が同時に楽しめるように、字幕付きの邦画での上映になりました。

字幕付き邦画上映は、セリフ以外にもシーンや役者の動きなども字幕で紹介してくれるので、障がい者だけでなく健常者にもわかりやすいと好評でした。車いすスペースは11スクリーンのうち、豪華なシートが売りのグランシアターと、体感型アトラクションシアターの2スクリーン以外、2〜4席分が確保されていました。

「久しぶりに映画を映画館で観た」「やっぱりコーラとポップコーンは王道と喜びの声が聞けました。障がいがあると遠くの映画館に出かけるのは大変。近くに映画館があるというのはいいですね。」



トリエの担当者 西土井美香さんが迎えてくれました



1階のインフォメーション前で見学の段取りを打ち合わせ



1階は夕方の買い物ラッシュ時にはにぎわうが平日昼間はゆったり



2階はかわいい雑貨がずらり

ユニバーサルデザイン

エレベーターのボタンは点字に加え、数字にも凹凸がつけられ、ボタンを押すときにも触って分かるようにユニバーサルデザインになっていました。

注目!



1F 食品フロア

1Fには成城石井など9店の食関連ショップが入っています



店内には椅子が多く、ゆっくり休めるところもたくさんありました

2F ファッションフロア

女性・男性向け生活雑貨やコスメ、ファッションなど14店のショップが入っています

バリアフリーから合理的配慮へ

A館は5フロアに60店舗が入り、ゆったりとした通路で、休憩スペース、障がい者用トイレなど設備が充実しているのが魅力です。

取材に同行してくれたのは、障がい者の相談を受けた方、仲間づくりなどを支援してくれた調布市社会福祉協議会の障害者地域活動の道口由美子さんと高江洲幸男さん。視覚障がいのある道口さんと、電動車いす利用者の高江洲さんは18年前から同センターで相談などを受けるほか、街の使いやすさをチェック。調布のまちづくりや福祉推進を語り合う会議で意見を述べるなど、さまざまな活動をしています。

一部店舗では通路が狭いという意見もありましたが、「18年前と比べると雲泥の差。このトリエもそうですが、交通機関も公共や商業施設も街中もかなりバリアフリーが進みました」と高江洲さんは語ります。

一方、道口さんは「次はソフト面。ハードだけでなく、差異に気づき、気遣い合う『合理的配慮』のような視点が進むと、障がい者ももっと暮らしやすい街になると思います」と語ります。

それは誰もが生きやすい街の実現でもあります。ハードからソフトへ、5年先、10年先、未来の調布が楽しみです。